

奥羽大学報



<春の逢瀬川をのぞむ>



126

目次

平成22年度入学式	2
大学院入学式・オリエンテーション/学長就任挨拶	3
歯学部学長就任挨拶/学会発表報告	4
新入生オリエンテーション/(歯)学外研修	5
父兄授業参観/父兄会・保護者懇談会	6
平成22年度影山晴川育英奨学金授与式/ アカデミア・コンソーシアムふくしま/	
平成21年度臨床研修先一覧/附属病院	7
新任教授挨拶	8
学生会活動記録/学長杯球技大会	9
歯学部卒業生天野カオリさんの研究奨励賞受賞/	
宮城県支部同窓会だより	10
同窓生のひろば/薬学部同窓会	11
人 事	12

平成22年度入学式

平成22年度入学式が4月4日(日)に奥羽大学記念講堂にて行われた。当日は、多くの保護者の方の列席のもと、緊張した面持ちの新入生が印象的であった。天野義和学長の告辞が行われると新入生は大学生としての自覚を新たにしたいようであった。

続いて、歯学部歯学科 佐藤知哉さん、薬学部薬学科 金子絵梨佳さんの両名から宣誓がなされた。新入生には、これから6年間、是非仲間と苦楽を共にし、立派な医療人となってほしい。



平成22年度入学式

告 辞

学 長 天 野 義 和

本日、ここに平成二十二年度奥羽大学入学式を挙行するにあたり、ご来賓の学校法人晴川学舎の理事の先生方をはじめとする役員・関係各位のご臨席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

歯学部第三十九期生ならびに薬学部第六期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご父兄の皆様おめでとうございます。

入学された皆さんは、一般の大学とは異なり、入学と同時に、歯学部の学生は歯科医師に、薬学部の学生は薬剤師になるという目標をもってこの学部を選ばれました。

急激に移り変わる情報社会とめざましい高度先端技術の進展の中で、高齢化社会が進み、国民の健康管理に重点が置かれる現今、国民の健康増進に対して歯科医師、薬剤師は大変重要な役割を果たす職業となります。勿論、歯科医師、薬剤師となるためにはそれぞれの国家試験に合格しなければなりません。

そのために六年間をかけてみっちり勉強をするわけですが、今までは一方的に教えられて来た勉強方法であったかも知れませんが、これからは自分が進んで勉強をして行く自学自習の勉強に変えて下さい。また、勉強をしていく上で日々の生活習慣が大きく影響します。例をとると、ある文部科学大臣が提唱していたように早寝・早起き・朝ご飯というような規則正しい習慣を身につけ、勉強する必要があります。

勉強することは、例外もありますが決して楽しいものではありません。しかし、この勉強の合間に、放課後とか、休日に、スポーツクラブで仲間や先輩と苦楽を共にしたり、大学祭に参画して色々な経験をし、情操を豊かにし、また感性を養うことが、奥羽大学の建学の精神である「人間性豊かな医療人の育成」の過程でもあります。

歯学部へ入学した学生は歯科医師になるという意識を、薬学部へ入学した学生は薬剤師になるという意識を常に持ってモチベーションの向上を図りながら勉強に励んで下さい。何かわからないことや困ったことがあればなんでも遠慮無く尋ねたり、質問して下さい。これが将来の患者さんとのコミュニケーションをとる練習にもなります。

一年の計は元旦にあり、月の計は一日にあり、一日の計は朝にありとするならば、大学の一年生の時に習慣づけた勉強の仕方が六年間の学生生活の基本となります。

入学した今日からしっかりと勉強を中心とする学生生活の方針を立て、一日一日が有意義で悔いの無い楽しい大学生活が過ごせるように努力されることを、また、健康な日々が送れることを祈願し、告辞と致します。

宣誓

新生代表 歯学部 佐藤 知哉
 新生代表 薬学部 金子 絵梨佳

本日は、私達一同にとりまして生涯忘れることのできない大きな喜びであります。

ただ今、学長先生の告辞をいただき、大学生としての自覚と責任の重大さを強く認識いたしました。

私達入学生一同は、ひとときの喜びにおごることなく、一日一日の積み重ねを大切に、建学の精神を尊び、学則を守り社会に役立つ人間を目指し、学業に専念することを誓います。



平成22年度入学式 宣誓

大学院入学式・オリエンテーション

平成22年度の大学院歯学研究科入学式が、4月4日(日)、午後1時から附属病院棟5階の第3会議室で大学院教員列席のもと挙行された。本年度の新入学生は8名で、天野義和学長より入学が許可された後、お祝いと励ましの言葉があった。

またオリエンテーションは入学式終了後、新入生から4年生までの全員を対象に研究科長から本年度のカリキュラムの説明があった。特に新入生に対しては、新たに改訂されたシラバスをもとに履修等についての詳しい説明がなされた。

(鈴木 康生)



大学院入学式・オリエンテーション

学長就任挨拶



奥羽大学学長
天野 義和

この度、学長を勤めさせて頂くことになりました天野義和です。宜しくお願いたします。

大学は高度な研究に裏付けられた教育を行い、学位を授与して卒業生を送り出すこと、即ち、学部教育を充実させることが盛んに言われています。

しかし、当大学は4年生大学の学部とは異なり、歯科医師国家試験、薬剤師国家試験を最終目標としています。今、この大学が真っ先に取り組みなくてはならないことは、入学者を増やすこと、国家試験の合格率を上げることです。そのためには、学生の教育に対して助手から教授に至るまで、教員は学生一人一人に頻繁に接触し、熱意を持って指導に当たり、また職員の方はその手助けをするなど教職員が一丸となって学部教育の向上に協力して頂き、入学者には責任を持って国家試験に合格する学力を付けさせて卒業させるように努力しなければなりません。

また、附属病院においては、明るくて安心・信頼のできる病院として患者数がさらに増えるように努力して頂くようお願いいたします。大学院においては、大学院生の充足と臨床に結びつく研究内容が望まれます。研究においては、科学研究費補助金などの外的資金の獲得に挑戦して研究成果を上げ、インパクトファクターの付く論文内容になるように努力してください。これらを実現することが、大学基準協会の適正評価に繋がります。事ある毎に改善点を見つけ出し、より良い大学になるように皆さんのご協力をお願いして、学長就任の挨拶とさせていただきます。

歯学部長就任挨拶



歯学部長
大野 敬

この度、歯学部長の職を拝命賜り、その責務の重大さを痛感し、身の引き締まる思いです。

奥羽大学は、平成20年7月より医療系大学間共用試験実施評価機構への加入を承認され、平成22年3月には大学基準協会の大学基準に適合していると再度認定されました。しかし、本学の歯科医師国家試験の合格率は思うように伸びません。ひいては受験生に対する歯学部の魅力の低下につながっています。

私は、歯科医師国家試験の合格率の向上を第一とした教育面の充実に取り組みます。歯科医師国家試験の合格率を向上させるためには、6年次だけでの教育では対応できません。入学時より共用試験、歯科医師国家試験を見据え、現カリキュラムをわかりやすく整理するとともに、教育効果の高い臨床実習内容に整備して参ります。

歯学部における教育効果は、歯科医師国家試験の結果としてあらわれます。建学の精神「人間性豊かな歯科医師の養成」を基軸とし、学生全員の“歯科医師になる”という入学時の夢を実現させるためには、私たち教職員が同じ方向を向き一丸となって取り組まねばなりません。私も使命感と責任感をもって真摯に努力してまいりますので、何卒、教職員の皆様と同窓の先生方のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

学会発表報告
① 「ナノサイズPMMAを用いたインプラント用仮着材の試作(3)」

歯学部生体材料学講座 龍方一朗 他 (第55回日本歯科理工学会)

発表内容: 新たなインプラント用仮着材の開発を目的として、材料の粉部をナノサイズPMMA(ポリメチルメタクリレート)、液部を少量のリモネンを含むユージオールとした仮着材を試作した。ナノサイズPMMAを粉部として用いたこの仮着材は従来の市販品と比較して、溶出試験、吸水試験および接着試験のいずれの結果も良好な結果を示し、ナノサイズPMMAの有効性が明らかとなった。

② 「マウス舌乳頭における味覚受容器の発生過程—受容器の発生時期と味覚機能発現について—」

大学院歯学研究科小児歯科学専攻 加川千鶴世 他 (第48回日本小児歯科学会)

発表内容: 味覚受容器の発生過程を調べるために、マウスを使用して成長発育過程における舌の味蕾の形態的特徴ならびに「甘み、うまみ、苦み」の受容体に共役するタンパク質の局在を免疫組織学的に検索した。その結果、胎生期にすでに“甘み、うまみ”の味覚機能が発現していることが明らかとなった。

③ シンポジウムでの発表

薬学部 早坂正孝、波多江 崇、東海林 徹、渡邊由香、深谷朋美 (2010年CJKジョイントシンポジウム)

4月24、25日にソウルで2010年CJKジョイントシンポジウムが開催され、参加したので報告する。ちなみにCJKは、China(中国)、Japan(日本)、Korea(韓国)の頭文字を取ったものである。

このシンポジウムは、日韓注射情報合同シンポジウムがその前身である。昨年までは、日本と韓国とで交互に開催されていたが、今年から日中韓で開催されることになった。シンポジウム会場はサムスン癌センターで、日本から21人、中国の病院薬剤師が23人、韓国の病院薬剤師が120人参加した。今回の主テーマは「注射に関するリスクマネジメント」であり、日中韓の病院薬剤師に興味のあるものであった。

(東海林 徹)

④ ハイライトポスターに選出

薬学部 東海林 徹、渡邊由香（日本薬学会第130年会講演）

平成22年3月28日～30日に岡山市で開催された日本薬学会第130年会において、一般演題『手洗いに
関する学生の意識を高めるために実習は有用か』が、ハイライトポスターに選出され、『あなたの手は本当に
きれい?—正しい手洗いの修得を目指して—』と題し、発表した。本発表は、5年次に病院・薬局実務実習をす
るにあたり学生への感染への意識向上のために、本学独自の内容として事前学習に取り入れた結果を報
告したものである。学生は、手洗いの方法として流水手洗い、市販液体石鹸手洗いそして速乾性擦式消
毒剤のいずれかを自ら経験し、速乾性擦式消毒剤を用いた方法が最も優れていたことを体験した。

本学会のハイライトポスターは全演題のうち約5%のみが選出されたものであり、本学の病院・薬局実務
実習事前学習の方法が評価された結果であると考えられる。また、病院・薬局実務実習事前学習に関わる
演題が多く発表され、各薬系大学での様々な事前学習に対する取り組みについて意見交換することもでき
たので、今後の学生の指導に役立てていきたい。

新入生オリエンテーション

歯学部

4月5日(月)、歯学部1年生に対するオリエンテー
ションが実施された。まず、学部長より、本学の
建学の理念・目的についての訓話、次いで学生部
長より6年間で学ぶ内容の概要、さらには共用試
験や国家試験についての説明がなされた。

午後からは郡山市保健所から講師を招き薬物
乱用防止セミナーが行われた。セミナー後半での
質疑応答などを通じ薬物乱用の危険性を強く認
識すると同時に法令遵守を誓った。その後のクラ
ス会では、クラス担任とクラスメンバーの自己紹
介などが行われ、奥羽大学生としてのスタートを
切った。

(廣瀬 公治)

薬学部

4月5日(月)から2日間にわたり、オリエンテー
ションを実施した。1日目は、学年主任、クラス担任の
紹介を行い、引き続き、1年間の日程、カリキュラム
と単位取得および選択科目の登録、学生生活上
の諸注意、学生相談室の利用等について、2日目
はクラス毎に分かれて、クラス担任からより詳細
な説明を受けた後、学内施設案内を実施した。
今後、学生諸君に起こると考えられる学習・生活
上の諸問題点に関してクラス担任一同、積極的に
解決にあたる所存である。

(押尾 茂)

(歯)学外研修

4月8日(木)から1泊2日の日程で1学年生の交流
と親睦を深める学外研修が、学生部長、学年主
任、カウンセラー、大学院生、事務職員が参加し
て天栄村の「ブリティッシュヒルズ」で行われた。

研修では、心の触れ合いを目的としたエンカウ
ンター研修、学生生活をいかに有意義に過ごす
かを考える問題解決型のグループワークとその
全体討論、さらにはアクティビティー(クッキング、
スノーカー、ジェルキャンドル)など盛りだくさん
の内容であった。8日の課外時間では、体育館で
学生、教員、事務職員が仲良くバドミントンや卓
球を行う姿も見られた。

2日間の研修を通じ、学生は新しい友人や先
生、さらには6年間の大学での生活を支援してく
れる事務職員の方々との良好な関係を築くこと
ができ、これからはじまる学生生活への不安も
解消されたようであった。

(廣瀬 公治)



父兄授業参観

歯学部

5月22日(土)の父兄会・保護者懇談会に先立ち、21日(金)に第5学年を除く全学年で、昨年好評であった父兄授業参観を行った。

参観には30余名の保護者が来学され、子供の意外な一面や他学年の様子などを参観して、大学での生活を観察できて大変良かったとの意見や来年も続けてほしいなど多数の意見が寄せられた。教員側も普段と違った緊張感を持って講義や実習に臨み、良い経験であった。

(齋藤 高弘)

薬学部

5月21日(金)に午前中は講義、午後は実習を中心に授業参観を行った。ある母親曰く「大学で授業参観って珍しい不是吗?」「そうですね〜、最近は、結構多くの大学でもやっていますよ!」と。折角連絡をいただいたのだから出かけて来ましたとのこと。ご自身も薬剤師であるご父兄は、「今の学生達は大変!」と昔のご自分と対比されていたのが印象的だった。ご父兄に本学の理解を深めていただくため、今後も積極的に授業を公開していきたいと思う。

(上野 明道)

父兄会・保護者懇談会

歯学部

5月22日(土)に第2講義棟第1講義室で第2回定時総会を開催した。出席者96名のもと田口会長を議長として下記の議案を審議し承認された。

【報告事項】

- (1) 平成21年度事業報告

【審議事項】

- (1) 平成22年度の役員選出について
- (2) 収支決算(案)について

また、同日午後には保護者個別懇談会を開催した。

昨年に引き続き三者面談形式で行われ、担任から大学での学習や生活状況の説明がなされた。学生たちは今後の課題の再確認とより明確な目的・課題意識を持つことができたようだった。

(渡辺 克己)



薬学部

5月21日(金)に第一回幹事会ならびに第二回総会が開催された(参加者57名)。

総会では、「平成22年度役員候補者並びに平成21年度事業報告および収支決算」がそれぞれ承認された。

また、当日はカウンセラーで歯学部准教授車田先生による研修講演「親の気持ち・子の気持ち」が開催され、多くの保護者がメモを取り聞き入っていた。

授業参観や実習見学に参加した父兄からは「普段は見る事ができない授業や実習の様子を見る事が出来てよかった。」といった感想が多く好評であった。また同時に学年主任、クラス担任との個別懇談も行われた。

(安藤 政明)



平成22年度影山晴川育英奨学金授与式

5月31日(月)学長室において奥羽大学影山晴川育英奨学金授与式が行われ、天野義和学長より奨学金とメダルが授与された。

この奨学金は学業成績及び人物が特に優れていると認められる者に授与されるものであり、本年度は次の3名の学生が推薦された。

- 歯学部 第3学年 高橋文太郎
- 第4学年 藪下莉沙
- 第5学年 児玉節子



<受賞のことば>

影山晴川育英奨学金をいただきまして、大変光栄に思っております。授与式では天野学長から励ましのお言葉をいただき感謝しました。

放課後や、遅い時間でも丁寧にご指導くださる先生方、毎日励まし合って勉強している人達、いつも支えてくれる両親に感謝しています。

これからも一日一日大切に、人間性豊かな歯科医師を目指し学びたいと思います。

(歯学部5年 児玉 節子)

アカデミア・コンソーシアムふくしま

平成22年3月26日に「アカデミア・コンソーシアムふくしま」が立ち上がった。このコンソーシアムは福島県内16の大学・短期大学・高等専門学校からなる前身の福島県高等教育協議会が発展改組したもので、本学でも平成17年度から参加している。

各機関と連携を取りながら共同で事業等を

実施してきたが、コンソーシアムの発足により多分野の事業を連携し実施することになった。すでに行っていたFDに加え、本学では「初年次教育」「SD合同研修」「高大連携」「医療・福祉」「生きる力養成」「学びカード」「生涯学習」の7分野のプログラムに参加している。その中で高大連携の分野では、昨年度本学会場に進学セミナーが行われ多くの高校生とその保護者が来校した。

これらの連携を通して、県内の高校生がそのまま県内の大学へ進学し、ひいては地域振興に繋がることが期待されている。

(三浦 孝英)

平成21年度臨床研修先一覧

		臨床研修施設別人数	
大学 附属病院	国公立	1	弘前大学
		1	東京大学
		2	広島大学
		1	九州歯科大学
		2	長崎大学
		2	鹿児島大学
	私立	19	奥羽大学(Aプログラム)
		9	奥羽大学(Bプログラム)
		4	日本歯科大学
		1	日本大学松戸歯学部
医療機関	1	東京歯科大学(千葉病院)	
	2	神奈川歯科大学	
	1	久留米大学	
	1	自衛隊病院	
	1	会津中央病院歯科口腔外科	
		1	伊東歯科口腔病院

附属病院

平成22年度登院式

4月1日(木)午後2時から附属病院棟5階臨床講義室において、90名の臨床実習生、多くの教育

関係者、病院関係者の出席のもと挙行された。

始めに、大野 敬歯学部長の挨拶があり、将来、歯科医師として活躍するための第一歩として、また国家試験に合格するためにも臨床実習を有意義なものにしてほしいことが述べられた。

また高橋和裕病院長からは、附属病院のスタッフとして患者さんから見られることを念頭に置き、しっかりとした態度で実習に臨むようにとの訓辞があった。真新しい白衣と帽子を身につけた臨床実習生は、緊張と希望が相半ばする表情で耳を傾けていた。

(山森 徹雄)

平成22年度歯科医師臨床研修開始式

平成22年度歯科医師臨床研修の開始式が4月1日に関係者多数の臨席を得、講義棟第二研修室で挙行された。

本年度の研修を受ける歯科医師は、単独型プログラム25名と地域医療短期プログラム16名および地域医療長期プログラム1名の42名での実施となった。研修歯科医がそれぞれ呼名・起立して病院長から臨床研修の意義・目的や歯科医師としての人格の涵養と自己研修のあり方、さらに健康の重要性について訓辞を受けた。

続いて大野歯学部長から歯科臨床における患者さんとの関わりのテーマであるインフォームドコンセントやコミュニケーション・スキルの重要性について話があった。出席者から、研修が意義のあるものになるよう大きな期待が寄せられ、閉式となった。

(高橋 和裕)



新任教授挨拶



歯学部 口腔生化学分野
加藤 靖正

4月1日付けで歯学部口腔機能分子生物学講座教授職

を拝命致しました。

私は北里大学衛生学部を卒業し、横浜市大大学院医学研究科博士課程(耳鼻科)を修了しております。平成元年に神奈川歯科大学に採用されて以来、教育面では口腔生化学のみならず、分子細胞生物学や遺伝学などにも携わってきました。

私の研究課題は、癌細胞の転移機構の解明であります。この研究は、恩師である宮崎香教授(横浜市大)のもとに開始以来、カナダ・ケベック大学やベルギー・リエージュ大学への留学を経て、20年来のライフワークとなっております。これまでの経験を生かし、本学の発展に寄与できるよう日々精進してまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



薬学部 生化学分野
大島 光宏

4月1日付で本学薬学部生化学分野の教授を拝命致し

ました。郡山でも初めてと言われる、桜が咲いてからの遅い雪が私の着任を歓迎してくれました。薬草園をはじめ、手入れの行き届いた庭園のような美しいキャンパス、親切で志の高い方々、教授室からの眺望、豊かな緑ときれいな空気、どれをとっても理想的な環境の下、新生活をスタートさせることができました。

教育面では、生化学が生命システムを理解するためいかに大切かを学生さん達と共に考え、研究面では経口歯周炎治療薬の実現に向けて邁進し、奥羽大学の発展に微力ながら貢献できればと思っております。皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



薬学部 医療薬剤学
早坂 正孝

4月1日から、伝統ある奥羽大学の薬学部教授として任用されました。

私は仙台にあります東北大学薬学部を卒業後、東北大学病院薬剤部に18年次いで東仙台駅近くの東北公済病院宮城野分院に12年お世話になりました。その間、医療現場の先端で調剤に明け暮れ、医師、看護師さんなど医療スタッフの只中で仕事をし、その合間に漢方製剤の品質評価の研究を行って来ました。最終的に「モノクローナル抗体を用いた血中グリチルリチンの測定法の開発及び薬物相互作用の解析に関する研究」というテーマで、足掛け22年で学位を取得しました。

まだ赴任して日も浅く授業や実務実習など、慣れず戸惑うことばかりですが、これから微力ながら本学に貢献出来ればと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

学友会活動記録

- アメリカンフットボール部
全日本歯科学学生総合体育大会
朝日大学
平成22年3月13日(土)～18日(木)
3位(デンタルポイント4点獲得)
- ゴルフ部
春季関東歯科学学生対抗戦
那須小川ゴルフクラブ
平成22年4月9日(金)・10日(土)
 - ・男子個人
準優勝 岡 真和 3位入賞 羽鳥 智也
 - ・男子団体
準優勝

学長杯球技大会

5月29日(土)・31日(日)に第16回奥羽大学学長杯球技大会が開催された。今年はバスケットボール、バレーボール、ドッジボールの計3種目で行われた。

球技大会は毎年2日間の日程で行われており、ドッジボールは2日間、バスケットボールは1日目に、バレーボールは2日目に実施された。

たくさんの人たちの協力をいただき、無事に終わることができた。おかげで、全ての種目で1位、2位、3位を決定することができた。

どの競技もチームが一丸となって、多くの学生や職員が優勝(賞金獲得)を目指して、白熱した戦いを繰り広げていた。また、たくさんの参加者が汗をかき、一生懸命プレーしている姿はとても印象的だった。来年も今大会を生かし、全ての競技において参加者に楽しんでもらえるような球技大会を開催できたらと思う。

最後に、この大会を開催するにあたり協力して下さった先生方、研修医や学生課、そして学生の皆様、本当にありがとうございました。

○バスケットボール

1位:ウールJr.

○バレーボール

1位:ポンポコ

○ドッジボール

1位:プザービート

(学友会企画局長 今龍 竜太)



歯学部卒業生天野カオリさんの 研究奨励賞受賞

歯学部第18回卒業生で、杏林大学医学部解剖学第一講座講師の天野カオリさんに平成22年度杏林大学医学部研究奨励賞が授与された。天野さんは本学の歯学部と大学院を卒業し、当時の口腔解剖学講座(現生体構造学講座)に助手として勤務後、米国ジョージア医科大学に2年間留学した。帰国後は杏林大学で、解剖学の教育と研究に従事している。

受賞した研究テーマは「損傷歯髄細胞の膜修復機構—象牙芽細胞への分化誘導への検討ならびに初期発生過程における血管・神経の走行—」である。損傷を受けた歯髄の細胞が修復されるメカニズムの解明は、歯科における再生医療の実用化を目指した重要な研究テーマである。

(清浦 有祐)

宮城県支部同窓会だより

奥羽大学歯学部宮城県同窓会の紹介をさせていただきます。まずは堅苦しい内容から始まりますが、お約束ですので概要から。

「会員の現況」

総数 158名:男性 121名、女性 37名

:開業会員 104名、勤務会員 54名

(けっこう大所帯ですよ!)

「委員会の構成」

- ・総務委員会 ・会計委員会
- ・広報委員会 ・学術委員会
- ・社会保障委員会 ・厚生、医療委員会

これら六つの委員会は、委員長のもと数名の委員がおり、各会の仕事をしております。他にも選挙管理委員や連絡委員などありますが、ここでは割愛させていただきます。

「執行部」

- 会 長
- 副会長 4名
- 専務理事
- 専務補佐

「宮城県同窓会の個性」

まずは宮城県という立地条件から、母校のある福島県とは隣同士、学術講演会で母校から講師をお呼びできます。その際に母校の様子も併せて聞くことができます。また東北大学歯学部があるので、本校出身者で研修している会員も多数います。大学よっての治療の違いや国立と私立の差も勉強になっているはずです。

同窓会の活動としては前述のように各委員会が担当の会務を遂行していますが、何と言っても宮城県同窓会の特徴は、月に一度の仙台で開催の理事会だと思えます。会長のもと副会長が4名おり、そして専務理事をサポートする専務補佐というポストがあります。副会長が4名いるのは会長の負担をいくらかでも減らすため、同様に事務処理の多い専務には補佐をつけました。そして各委員長、委員の立場をすべて理事とし、住所によって旅費等も考慮しました。理事会では机を「コの字型」に並べ、お互いに顔を見合わせながら、若いも若きも意見を交換し合っています。理事の皆様には診療を終えてから遠方より出席なさる先生もいらっしゃるので、事前にメーリングリストで資料を送ってお目通し願ひ、時間短縮を図っています。理事会後は必ず懇親会を行い、古い言葉ですがいわゆる段階の世代を作らぬよう、親睦を行っています。

「結論」

宮城県同窓会は、同窓会活動の基本である理事会が、じつに良く機能しています。4期生角田哲会長の抜擢による多数の若い理事たちが活発に意見を述べ、述べるだけではなく実際に行動し、会長はその自主性を重んじて暖かく見守り、これまた絶妙のタイミングで監事の先生方がアドバイスをくださいます。これらの力の結集が、去る3月13日の創立30周年記念講演会・記念祝賀会を成功へと導いたと確信しています。卒業後の進路や開業を宮城県に求めている会員の皆様、宮城県同窓会では各卒業期に、開業医、勤務医、研修生と存在しており、経験者が多数おり、また理事会としても質問に答え、アドバイスできる体制を整

えております。その際はぜひご一報下さい。同窓会の基本理念である「会員擁護」の精神は脈々と息づいています。そして何と言っても、宮城県同窓会は明るく生きてます！

(石川 和史)

同窓生のひろば

渡辺 治 (歯学部 10期生)

私も卒業して開業し20数年経ちました。長いこと歯科医師会に所属していると、色々な仕事がまわってきます。ここ数年は警察歯科医会の担当をしています。

最初は正直嫌な仕事を任されたなと思っていました。うちの地区では、年間十数件、平均して月に一件のペースで警察署から身元不明遺体の捜査協力の依頼があります。これが多いのか少ないのか私には分かりませんが、依頼があると警察署もしくは現場に行って口腔内診査表を取ってきます。それとカルテやレントゲンなどの治療痕と一致すれば本人と判明しますが、実際には本人に治療痕があまり無かったり、本人と思しきカルテなどが無かったりで、歯科的所見のみで判明することは決して多くはありません。

それでも、年間何人かは、歯科的所見で本人と判明します。もちろん、いち地区の歯科医師会には、世間を騒がす事件性のある案件はまわってきません。そのほとんどが孤独死や自殺者です。こんな事を書くと私の学生時代を知っている同窓生に笑われそうですが、現場での警察官の努力、孤独死の淋しさ、物悲しさに触れて一人でも無縁仏を減らしたいと思うようになりました。これも、歯科医師としてできる社会貢献の一つだと思います。

薬学部同窓会

早いもので、薬学部同窓会が始動して1年が経ちました。無事に1年を過ごせたのは、大学関係者の皆様や、歯学部の同窓会の皆様、そして同じ学び舎を巣立った同窓生とご父兄の皆様のご理解とご協力のお陰とっております。この場を借りて、御礼申し上げます。

さて、私は現在、茨城県の調剤薬局に勤めております。まだまだ未熟なものですが、少しでも地域医療の発展に貢献できるよう頑張っています。

それでも、日々患者さまへの対応に四苦八苦しております。臨床の現場では、教科書にないことだらけです。思うに、私たち医療人は、患者さまに教わり、患者さまに育てられているようなことのほうが多いのではないのでしょうか。

私は、地域医療の発展には「絆」が最も大切なものと考えております。患者さまとの絆、医療従事者同士の絆。お互いが支えあつての地域医療はなりたっているのだと思います。信頼され、安心して薬を任せていただける薬剤師になれるようしっかり勉強していきたいと思っております。

そういった私たち同窓生の姿勢を、後輩たちにも伝え、ともに学んでいける薬学部同窓会を築いていきたいです。昨年度の反省をもとに1年1年を確実に積み上げていきたいと思っております。

最後になりましたが、薬学部は今年、旧4年課程と新6年課程の狭間にあります。4年課程での課題をもとに、臨床の場でもっと活躍できる薬剤師の育成を目指して、私達同窓会も母校にできる限りの協力をさせていただきます。

今後も、よろしくお願いたします。

(二階堂 淳美)

人事

〈昇任〉		旧	新	
伊原 禎雄	助	口腔機能分子生物学 助 教 講	口腔機能分子生物学 講 師	4月1日付
倉本 敬二	講	薬学 部 講 師	薬学 部 准 教 授	4月1日付
〈兼任〉		旧	新	
清野 晃孝	准教授	診療科学・臨床 准教授・臨床教授	診療科学・臨床 准教授・臨床教授	4月1日付
衛藤 雅昭	教授	薬学部・附属病院 教授・医師	薬学部・附属病院 教授・医師	4月1日付
小池 勇一	教授	薬学部・附属病院 教授・医師	薬学部・附属病院 教授・医師	4月1日付
〈任用〉				
加藤 靖正	教 授	口腔機能分生物学		4月1日付
大鳥 光宏	教 授	薬学 部		4月1日付
早坂 正孝	教授(実務家)	薬学 部		4月1日付
山岸 丈洋	准 教 授	薬学 部		4月1日付
宇佐見 則行	准 教 授	薬学 部		4月1日付
鈴木 敏城	講 師	心 理 学		4月1日付
佐藤 穂子	講 師	歯科保存学		4月1日付
金子 俊幸	講師(実務家)	薬学 部		4月1日付
坂井 祐真	助 教	歯科補綴学		4月1日付
渡邊 浩秀	助 教	歯科補綴学		4月1日付
宮下 照展	助 教	口腔外科学		4月1日付
伊藤 寛	助 教	口腔外科学		4月1日付
吉永 聡	助 教	成長発育歯学		4月1日付

和田 隆史	助 手	歯科保存学		4月1日付
長崎 慶太	助 手	診療科学		4月1日付
今田 玲美	助 手	成長発育歯学		4月1日付
佐藤 安訓	助 手	薬学 部		4月1日付
戸上 紘平	助 手	薬学 部		4月1日付
金原 淳	助 手	薬学 部		4月1日付
田辺 理彦	講 師	臨 床		4月1日付
大野 敦司	講 師	臨 床		4月1日付
関根 貴仁	講 師	臨 床		4月1日付
早田 幸夫	講 師	臨 床		4月1日付
松村 奈美	講 師	臨 床		4月1日付
青田 快雄	助 手	臨 床		4月1日付
赤城 陽一郎	助 手	臨 床		4月1日付
井上 雅貴	助 手	臨 床		4月1日付
大脇 敏弘	助 手	臨 床		4月1日付
荻生 彩紗	助 手	臨 床		4月1日付
下出 毅	助 手	臨 床		4月1日付
鈴木 文章	助 手	臨 床		4月1日付
田中 克典	助 手	臨 床		4月1日付
長嶺 学	助 手	臨 床		4月1日付
新田 康博	助 手	臨 床		4月1日付
林 太一	助 手	臨 床		4月1日付
福島 雅啓	助 手	臨 床		4月1日付
村上 知久	助 手	臨 床		4月1日付
八木 下 健	助 手	臨 床		4月1日付
渡辺 有希	助 手	臨 床		4月1日付
山本 将人	助 手	臨 床		4月1日付

〈採用〉

吉村 香織 事務職員 病院事務部 4月1日付

〈委員会からのお知らせ〉

現在、奥羽大学学報委員会では文学部の同窓生のひろばの記事を募集しております。内容は皆様の近況等を中心に600字程度の文章で下記の住所、もしくはEメールアドレスまでお送り下さい。その際にお手数ではありませんがご本人の写真、学科並びに卒業期を添えて頂ければ幸いです。皆様からの寄稿を心よりお待ちしております。

連絡先／奥羽大学 総務部 広報担当
gakuhou@jim.ohu-u.ac.jp

奥羽大学報126号 (通算No.251) 平成22年5月31日発行
発行 奥羽大学 学報編集委員会 委員長 天野義和
〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1 電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372 ホームページアドレス http://www.ohu-u.ac.jp メールアドレス info@ohu-u.ac.jp